

翔陽

帯広市立翔陽中学校 学校便り 特別号2
令和5・1・18発行
校長 海鋒 達也

《学校教育目標》
豊かな心で たくましく
意欲をもって 希望を叶えよ

学校経営の取組紹介

新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で、学習機会と学力、全人的な発達・成長等を保障する学校教育の役割が再認識されております。

学校においては、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」のよさを更に発展させ、子どもたちに未来社会を切り拓く資質・能力を確実に育むことが求められており、本校では「個別最適な学び」（個々の習熟度や興味に応じた学習）と、「協働的な学び」（多様な他者とよりよい考えを生む学習）を充実させる取組を進めてきました。

その様子は、随時、学校だよりやホームページで紹介してきましたが、学校評価（満足度アンケート）の実施にあたり、関係する内容を抜粋して本紙で紹介します。参考にさせていただき、アンケートへのご回答をお願いいたします。

1. 安全指導の取組



①交通安全指導 <4月・7月>

4月は特に事故の多い自転車使用についての指導と自転車点検を実施しました。

7月はPTA社会部と連携して「交通安全宣言」集会を学年毎に実施しました。



②避難訓練 <5月・6月・9月・11月・2月>

コロナ禍での避難経路や「危険を予測し、回避する」行動を確認しています。



④防犯教室 <2年、11月>

帯広警察署職員を講師に招いて実施しました。

⑤3学期に実施予定

①情報モラル教室 <1年>

②薬物乱用防止教室 <3年>

2. 学力向上の取組

(1)指導工夫で学びの充実へ

①習熟度別少人数指導



<数学少人数指導>

学習の定着をめざし、定着に課題の見られる単元や、単元のみを中心子どもたちから希望を取り、少人数のグループ別（1学級を2グループ）の学習を進めています。

②ICT活用



<タブレットの活用>

大型モニターや、1人1台端末の活用により、個々の習熟度や興味に応じた学習を充実させるなど、効果的な指導工夫を進めています。

③放課後学習会



<スタディサプリ学習会>

今年度より導入したスタディサプリを活用した学習会を定期的実施し、自分の課題に合わせて動画視聴や問題を解いて学習しています。



<はばたき学習クラブⅠ>

①全校を対象に教員・地域スタッフが講師を務めて学習会を実施（3学期）

②3年生を対象に塾講師が来校して学習会を実施（11～12月に5日間）

③「大人の学力向上学習会」と題して保護者を対象に塾講師が受検情報、家庭環境の大切さを講話（11月）



④長期休業学習会



<はばたき学習クラブⅡ>

夏・冬休みに学習会を実施し、宿題や課題、スタディサプリに取り組んでいます。（各3日間）



<実験教室>

普段の授業ではなかなかできない発展的な実験を行い、より広く、より深い学びとなるよう進めています。

①夏休みは十勝の農業、眼球解剖、見え方実験

②冬休みは遺伝の法則、生殖器解剖、岩石標本づくり



<学校評価のお願い> 本校の教育活動にどのような印象を抱かれているかを把握し、その結果を今後の学校経営の充実に生かすことを目的に「保護者による満足度アンケート」（学校評価）を毎年8月・1月に実施しています。以下の要領で実施しますので、ご多用のこととは存じますがご回答をお願いいたします。

<回答の方法>

- ・ **1月20日（金）18時に安全メールを送信します。メールに添付されたURLからご回答ください。**
（登録されていないご家庭は別紙にてご回答ください）
- ・ **本紙（学校だより）をご参照の上、一家庭で一回ご回答ください。**（期日は1月31日（火）までです）

(2)全国学力・学習状況調査より

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の検証・改善や、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、4月19日に3年生を対象として国語・数学・理科で実施されました。（令和4年度の結果は以下の通りです）

<国 語>

- 平均正答率が全国より大きく上回った。
- 漢字の行書と書き方についての正答率が高い。
- 助動詞の働き、事象や行動、心情を表す語句など、言葉の特徴や使い方に関する事項への理解が高い。
- △自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

<数 学>

- 平均正答率が全国より大きく上回った。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確立についての正答率が高い。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えるなど、知識・技能を問う問題への正答率が高い。
- △判断の理由や、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

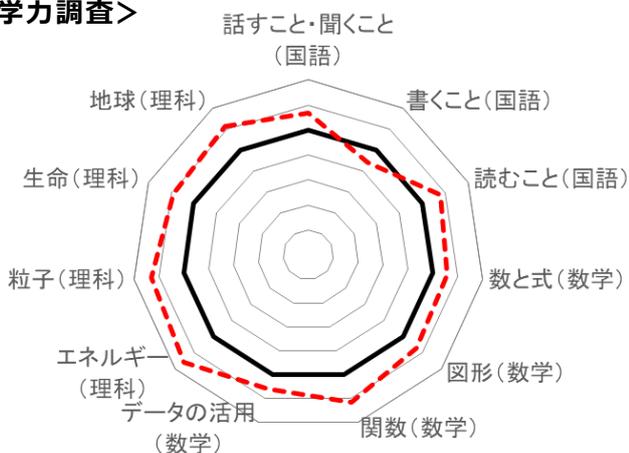
<理 科>

- 平均正答率が全国より大きく上回った。
- 条件を制御した実験の計画についての正答率が高い。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことを問う問題への正答率が高い。
- △他者の考えについて多面的、総合的に検討して改善することや、現象を科学的に説明することに課題が見られた。

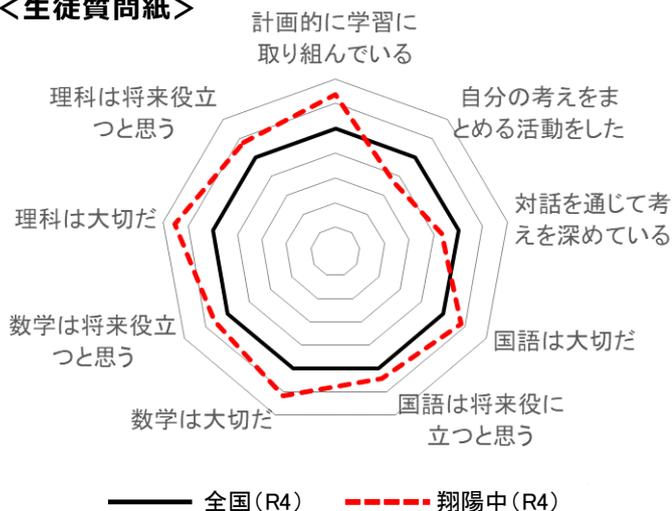
<生徒質問紙>

- 国語・数学・理科の勉強について、いずれの教科も「好き」「大切」「将来役に立つ」と感じている生徒の割合が全国より高い。
- 自分には良いところがあり、認められていると感じている生徒の割合が全国より高い。
- 計画を立てて学習している生徒、家庭学習時間が多い生徒の割合が全国より高い。
- △自分の考えをまとめて伝えたり、他者の意見を生かして課題解決をすることができると感じている生徒の割合が全国より低い。

<学力調査>



<生徒質問紙>



※ これらの結果を分析し、これまでの指導の実態と関連づけながら、指導の改善に結びつけていきます。
 ※ チャレンジテストや学力テスト・定期テスト・標準学力調査等を活用しながら、短期間で検証・改善します。

(3)よりよい授業を目指して

【物事を多角的に捉え、学びを深めることができる生徒に】

本校では、研究テーマ（上記）のもと、計画的に校内研修（教員や関係者による授業参観や協議）を行い、各教科の見方・考え方を働かせた論理的な対話を大切に授業づくりを進めています。



10月25日は市教委と十勝教育局の指導主事を招いて、全教員の授業を参観した後、研究協議を行いました。各



種テスト結果による個々の達成状況や、外部からの助言、学校評価・学習アンケートの結果を活用しながら、より良い授業を目指し、改善を重ねていきます。

(4)学習習慣の定着を目指して

①家庭学習の推進

日常的に家庭学習を直向きに取り組み、積み上げていくために、宿題や課題以外にスタディサプリや、学習委員会が作成した家庭学習プリントなどを活用しています。

家庭学習プリントについては、生徒が自ら作成して取り組み、取組状況を記録することで、お互いに刺激し合い、家庭学習への取組意識を高め合っています。

また、チャレンジコーナーを2階廊下に設置し、チャレンジテストなど、自由に持ち帰れるようにしています。



②自らの取組への振り返り

テスト計画の振り返りや教育相談で、自分を見つめる機会となるよう以下の視点でお話しています。



・現時点での自分を知り、どれだけ自分が成長したか、これからすべきことは何かを探る機会としてほしい。

話すことで自分の考えが整理され、自分が決めることで行動に覚悟が生まれます。主体的な考えと行動を支援して、背中を押していきます。

③家庭のとの連携

懇談会や「大人の学力向上学習会」を通して、家庭での望ましい



生活習慣や学習習慣についてお話ししています。学校と家庭の役割の違いや、子どもが伸びる言葉かけなどについて交流しています。



3. 体力向上の取組

(1)全国体力・運動能力・運動習慣等調査より

全国的な生徒の体力や運動能力・運動習慣等を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や改善等に役立てる目的で、毎年2年生を対象に実施しています。（令和3年度結果は以下の通りです）

<男子> (令和3年度より)

- 長座前屈(柔軟性)で全国より高い。
- 体育の授業が楽しいと感じている生徒の割合が全国より高い。
- △6種目で全国より低く、特に上体起こし(筋力)、反復横とび(敏捷性)に課題が見られた。

<女子> (令和3年度より)

- 50m走(疾走能力)で全国より高い。
- 朝食を毎日食べる生徒、ものごとをやり遂げて嬉しかったことがある生徒の割合が全国より高い。
- △6種目で全国より低く、特に握力(筋力)、反復横とび(敏捷性)に課題が見られた。

※ 令和3年度は緊急事態宣言の発令により、5～6月にかけて部活動が休止となり日常の運動量が減少したため、直後の新体力テストの結果に影響していると考えられます。

※ 今年度の結果については、後日改めて学校だより等で紹介します。

【対策】

・令和3年度の結果を受けて、今年度、主に以下の取組を実施しています。

①粘り強い補強運動への取組

毎授業の準備体操後に基礎的な筋力・敏捷性を向上させるミニトレーニングを取り入れ、さらに運動量を確保した授業展開を行っています。

お互いに励まし合ったり、成長を認め合う雰囲気が高まっています。

②「Sリーグ」(翔陽リーグ)の実施

学期毎に、ハンドボールやアイスホッケーなど、異なる球技の学年リーグ戦を実施しています。

生徒は様々な種目の特性や楽しさを味わい、対抗戦を通して仲間意識を高めています。

(2)感染対策と教育活動

感染状況や国・道の指針により、刻々と対応が変化していますが、その都度、市教委の指導・助言のもと教育活動を進めています。

【写真:7月、3年生の分散給食】

※現在、全学年で向きや配置を工夫して摂食しています。



4. 豊かな心を育む取組

(1) 協働的な学びの充実

① 心のつながりを生む取組

・体育祭「仲間とつくる感動」

「頑張ることは格好いい」
「心を一つに揃えることは
素敵なこと」を体現し、仲
間を励ます姿、お互いの健闘を讃え合う姿が輝いてい
ました。



・文化祭「心一つに歌声響く」 <10/1>

「心を一つに揃えることは素敵なこと」を体現し、表
現力や情操を高
め、一人一人の
心に残る合唱や
発表、作品をつ
くり上げました。



② 意見発表「私の思い 言葉このせて」 <9月>

夏休みに全校生徒で取り組み、疑問や葛藤に対して、
自分や周囲はどうしたらよいかを発表しました。自
分たちのあり方や生き方を中学生の視点で堂々と発表
し、思いを言葉で伝えました。

③ ボランティア活動 <5月～>

グリーン倶楽部(有志)による花壇整備や落ち葉清掃など
の環境整備活動を実施しています。



④ 地域の教育資源を活用した学び

・3年進路学習「高校の先生に聞く」 <6月>

～具体的な進路実現へ～

15校の高校に協力をいただき、
説明と質問により自らの進路選
択に必要な情報を集めました。



・1年郷土学習「ウォークラリー」 <7月>

～帯広の歴史と文化を学ぶ～

修学旅行の自主研修の予行も兼
ねて、グループ毎に施設を訪問
し、ふるさと帯広の歴史と文化
を調べました。



・2年職場体験学習 <10月>

～働く意義、職業観を学ぶ～

36の事業所に協力をいただき、
2日間の職場体験を通じて、働
く意義や職業観を学びました。



・おひひろ市民学「SDGs」他 ～持続可能な社会のために～

<1年> 認知症サポート・手話教室・家庭科和服教室



<9月 認知症サポート> <11/8 手話講座> <11/9・10 家庭科和服教室>

<2年> SDGs学習・マナー講座・防犯教室



<9/1 SDGs学習> <10/4 マナー講座> <11/1 防犯教室>

<3年> 財政教室・租税教室・選挙教室



<10/18 財政教室> <10/20 租税教室> <11/15 選挙教室>

地域の方や保護者が講師となって、専門的なお話や体
験活動を行いました。生徒は将来のこと、社会のこと、
郷土のことについて学習を深めました。

・インターシップの受入 <11月>

本校卒業生を含む高校生が来校しました。中学生は「年
の近い先生」から、進路や将来像についての刺激を受
けていました。

(2) 道徳授業の充実

① 「考え、議論する道徳」 <年間>

アンケートや面談等による生徒の実態を調査し、「関
わる・つながる」テーマのもと「考え、議論する道徳」
の授業を全教員で担当を決めて実践しています。

② 「いのちの学習」 <3学期>

助産師が講師を務め、命や性、思
春期の心と体について考える学習
を行い、自分と他者を尊重する大
切さを学びます。



③ 「3つの感染を絶つ」特設授業 <5月>

- ・「病気」を絶つ → **新しい生活習慣の徹底**
- ・「不安」を絶つ → **不確実な情報を広げない**
- ・「差別」を絶つ → **大変なときこそ助け合い**

<授業後の生徒の感想>

- ・感染対策をしっかりと、規則正しい生活をしていきたい。
- ・正しい情報で正しい判断をする。決して広げない。
- ・自分も感染するかもしれない。感染者の気持ちを考え、差別や偏見を言う人がいたら止めたい。
- ・安心して登校出来るように迎えたい。相談にのってあげたい。

(3) 将来の自分の姿を考えさせる取組

「職場体験」や「高校の先生に聞く」、教育相談や進路説明会、三者面談を通じて進路について考えを深める機会を設定しています。

また、生徒は部活動や地域活動等での出会いから、将来の生き方の刺激を受けています。



(4) 集団と自分の関わりを考えさせる取組

① 各種アンケートの結果より <11月>

(生活習慣、いじめや自己有用感の調査)

| | | |
|----------------------|---|------------|
| ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている | … | 48% |
| ・家の約束を守ってスマホ等を使用している | … | 28% |
| ・「いやな思い」があった | … | <u>1%</u> |
| ・困っても誰にも相談しない | … | <u>7%</u> |
| ・誰かの役に立っていると思う | … | <u>18%</u> |

- ・「いやな思い」を積極的に認知し、面談を通じて、人との関わり方や距離感、今後すべきことについて考えさせる機会を設定しています。
- ・困ったときの解決法を考えさせています。回避することは緊急時には有効です。でも、本当に解決するには相談することが大切だと伝えています。
- ・協働的な学習を通して、一人一人の「存在そのものが尊い」こと、違いや良さを認め合い、自己有用感を高め合うことで学校生活を楽しく豊かなものにする意識を促しています。

② いじめ撲滅集会 <12/1>

生徒会主催による「いじめ撲滅集会」を行い、いじめの芽がないかを改めて全校で確認し合いました。生徒代表より「いじめ撲滅宣言」が出され、生徒たちは一人一人の思いをカードに書き込み、模造紙に貼って玄関に掲示しています。



<12/1 いじめ撲滅集会> <一人一人の思いをカードに記入、掲示物に>

③ アセス調査（学校適応感の調査） <5月>

学級全体と生徒個人の適応感を調べ、SOSのサインや、集団中の関係性について確認し、指導・支援の参考にしています。



④ 教育相談 <5月、10月>

学習や生活、人間関係、部活や進路など、生徒が相談したいことを記載した教育相談シートを基に実施しました。

- ・人との関わり方や距離感とは人と関わって学ぶもの。人との関わり方や将来の姿など、いまの自分と向き合い、これからすべきことは何か、将来どんな生き方をしたいか、考えを深める機会としてほしい。

5. 小中連携の取組



～翔陽中・柏小・帯小・光南小・東小の取組～

子どもたちにとって、義務教育9年間は自立のための大切な学びの時間です。7月22日、翔陽中学校区の職員30名が一同に会し、学習・生活等の視点で話し合いました。小・中のなめらかな接続や、9年間を見据えた教育について取組を進めています。その取組の一部を紹介します。

(1) 中学校教員による出前授業「キャリアアップ学習」

7月から順次各小学校

で実施し、中学校の学習、生活、部活、進路などをスライドや動画、作品や演奏などを交えて紹介し



ています。中学校生活の見通し、心構え、今から準備しておくこと等を考える学習を1～2学期に実施し、3学期は、入学説明会と2回目の出前授業を行う予定です。

(2) 職場体験学習による児童生徒の交流

本校2年生が各小学校で実習しました。児童生徒の交流を通して、中学生は先輩（先生）としての振る舞い、児童は将来の自分の姿を考える機会となりました。

(3) 教職員の連携会議・研修会

小中連携会議をはじめ、特別支援担当による打合せや説明会・見学会の実施、各校の実践発表会への参加、生活や学習の情報共有と対応など、随時行っています。

(4) その他

今年度、吹奏楽部の練習会場に柏小体育館を借用し、感染症への対策と効果的な練習を実現することができました。(翔陽中史上初の全道出場につながりました) また、小学生が練習風景を見学し、部活に励む中学生の姿に刺激を受け、中学校進学への意欲づけの一助にもなったようです。

※ 以上を参考にさせていただき、**満足度アンケート（学校評価）への回答をお願いいたします。**